

大窪湿原自然観察教育林における森林環境教育のための条件整備

会津森林管理署 流域管理調整官 藤原 孝吉
大芦森林事務所森林官 星野 要

1 課題を取り上げた背景

自然観察教育林に指定されている「大窪湿原」（標高 1,000～1,100m）は、福島県南西部に位置する「駒止湿原」の東方に位置し、ブナを主とする天然広葉樹林に囲まれ、ワタスゲ等の湿原植物が生育する湿原が点在し、優れた自然景観を形成し、自然探勝・鑑賞等に適した地域です。

しかし、拡大造林時代に排水溝を設けて人工林化した経緯があり、地下水の低下による灌木類の進入が見られ、湿原特有の景観が損なわれてきています。

このことから、湿原の回復、そして満足できる自然観察が可能となるよう観察路及び眺望箇所を整備し、当該教育林の質的向上を図るものです。



写真1 湿原の様子

2 具体的な取組

(1) 湿原の回復

過去に、湿原の至る所に設置した排水溝が地下水の低下をもたらし、湿原の植生が減退してきていることから、次の施工を行い湿原の回復とその状況のモニタリングを行いました。

- ① 間伐材等を利用し、排水溝を堰止め
- ② 湿原に進入した灌木類の除去

(2) 観察路の整備

湿原回復に必要な作業路は、観察路として利用できるよう配置・整備



写真2 排水溝の状況

しました。

(3) 景観整備

眺望を妨げている立木の除去を実施しました。

(4) 自治体関係

当該教育林が所在する昭和村は、「緑の回廊整備プラン」の報告書作成し、当該湿原の優れた自然を紹介するなど、グリーンシーズンの入り込み増加による村の活力向上に取り組んでいることから、昭和村の当該教育林に対する活用の考え方を聴き取りました。

3 取組の結果

(1) 湿原の現況

湿原の排水溝の堰止めを実施した箇所は、水位が上昇し、湿原の環境条件が確認されました。さらに、灌木類の除去により、潜在していたミズバショウ等の確認できました。また、排水溝の配置の測量により、灌木の進入を促していた排水溝の全体像を把握できました。

(2) 景観整備

立木除去により湿原内の見晴らしが向上しました。

(3) 地域連携

昭和村からは、当署が取り組んだ湿原の回復、観察路の整備について、その継続により村の活力向上の一つとして期待できるものであり、今後の連携を村として検討したいとの確認を得ました。

4 まとめ

今回の取組により、湿原の回復に対する排水溝の堰止め効果や同施工の必要な位置等が洗い出されました。今後も、湿原全体を回復させ、観察教育林としての質的向上を図るため、水位観測、植生調査を行い、水位変化による灌木類の自然枯死についての把握も含め引き続き取り組んでいきます。

また、地元自治体をはじめ地域関係者の支援を得て、地域の意向を反映した取組となるよう進めていく考えです。